

受	令和 6 年 6 月 4 日
付	午前・午後 11 時 52 分

一般質問（代表・個人） 通告書

令和 6 年 6 月 4 日

尾張旭市議会議長 殿

氏 名 榊原利宏

尾張旭市議会会議規則第 50 条第 1 項の規定により 6 月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 3 件

2 質問方法

	1 回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項（大項目）ごとに一問一答
○	1 回目から 質問事項（大項目）ごとに一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



質 問 事 項	尾張旭市の農業について
No. 1 - 1	
要 旨	(1) 尾張旭市の農業の現状について 日本の食料自給率は38%ですが、飼料、種を考慮した実質自給率は9.2%です。長らくの政府の農政によって輸入に依存した状況となっています。我が国の農業政策は、失敗だったと私は思っております。目下、我が国政府は軍事費を5年で43兆円と、軍備拡張を進めていますが、食糧を自給もできなければともに戦える状況とは言えないでしょう。私はこの軍拡には反対であります。食糧の安全保障という面では、今の日本は極めて深刻な状況であります。 そういった中、尾張旭市の農業がどうなっているのでしょうか。 ア 総農家数、耕地面積の推移について 『尾張旭市誌 現代史編』を見ると、1989年のバブル経済絶頂期以降、「耕地利用率の低下と低迷から衰退が、重大な局面に入った」「畑の利用が低下」し「90年代以降、市域農業の耕種部門は空洞化しつつある」と述べています。総農家数、耕地面積は1990年からの30年間ほどの推移はどのようなのでしょうか。 イ 市の農業の現状について 市誌は、先の言葉に続けて、「販売規模別農家数では、50万円以下の規模の農家が急減している。(略) 農業機械を始めとする生産手段の減価償却費や人件費などを考慮すれば、米を販売する農家のほとんどが経営としての意味をなさないという実態がある。(略) また、野菜を販売する農家もほぼ全て露地栽培であるから、零細な経営規模層での高額販売は期待できない。(略) 販売額が500万円を超える農家は極めて限られており、農業経営の法人化の対象となる経営も市域には育っていない」と指摘しています。市誌は平成23年(2011年)に発行されています。 現時点において、市の農業の現状をどう見ているのか、伺います。

※ 申し合わせ事項に留意する。

※ 申し合わせ事項に留意する。

※ 申し合わせ事項に留意する。

※ 申し合わせ事項に留意する。